

	<h1>志木三小だより</h1>	志木市立志木第三小学校
	学校教育目標	令和元年度 第4号
	賢く 優しく 遅しく	令和元年7月1日
	学校運営協議会スローガン	志木市柏町3丁目2番1号
	共に愛そう わがまち わが学校	TEL 048-471-1062
		児童数7月1日現在 590名



思いやりの心

校長 中平 仁

6月1日(土)におやじの会を中心として、校地内の樹木の剪定をしていただきました。途中から気温が上がり大変な作業になりましたがありがとうございました。6月5日(水)から個人面談が行われました。お子様の家庭での様子、学校での様子など保護者の皆様と共有することができ大変有意義なものになりました。これからも子供たちを真ん中に置いて、家庭、地域と力を合わせて教育に取り組んでまいります。

さて、今月の全校朝会で「天国と地獄の長い箸の話」をしました。ご家庭でもお子様と思いやりの心の大切さについてお話しいただければ幸いです。

昔、ある男が天国と地獄の見学に出かけました。ちょうど食事の時間でした。地獄の食事はひどい料理かと思っているととても豪華な食事でした。ただし決まりがあって天国も地獄も自分の身長ほどの長い箸を使って食べなくてははいけません。地獄の人たちはがりがりに痩せていました。地獄の人たちは、とんでもなく長いその箸で、自分の口に食べ物を運ぼうとしましたが、何度やっても食べ物はこぼれるばかり。食べることはできませんでした。どんなにご馳走が目の前に用意されていても食べることは叶わず、常に飢えに苦しみ、そのせいで争いも絶えない状態でした。天国の人たちはというと、たくさんおいしいものを食べ、誰もが幸せに満たされた顔をしていました。なぜなら、みんな、その長い箸を人のために使っていたのです。テーブルをはさんで向かい側にいる人に「はい、どうぞ」と食べ物を届けていたのです。「まずは、あなたからどうぞ」そう自然に思える人たちの集まる天国は、飢えも争いもない、みんなが笑い合える幸せの世界でした。

同じ環境や場所でも自分のことだけ考えて自分勝手に行動していると、そこは「地獄」となり、常に相手のことを考えながら思いやりを持って行動すると、そこは「天国」となります。クラスや学校、社会も同じではないでしょうか。一人ひとりが思いやりの心をもって生活するとみんなが幸せになれるですね。(6月19日 校長講話より)